国際親善ニュース

第　6　号
昭和54年12月1日発行
金沢市都市提携委員会
事務局：金沢市総務部総務課
国際親善係　TEL　20－2075

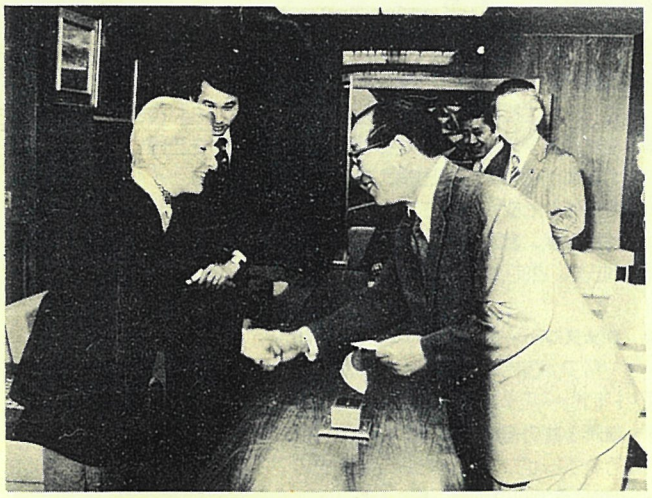
豊かな友好交流

○金沢市邦楽・舞踊親善使節団がゲント訪問

姉妹都市ゲント市から「ゲント市祭」への参加招請を受け、金沢市邦楽・舞踊親善使節団一行24名が7月15日から17日までゲント市を訪問し、公演を行った。上野禎洋県邦楽・舞踊協会事務局長を団長とする一行は、日本舞踊、長唄、箏曲から構成され、藤間　寿さん、杵屋弥房以さん、釣谷雅楽房さんがそれぞれのチーフとなった。1回目の公演は、15日午後4時からセント・ポール駅前広場の屋外ステージで行われた。約 1,000人の聴衆は、琴、三味線の調べ、そして日本舞踊の優雅な舞姿にすっかり魅了された。2回目の公演は、翌日の6時からセント・バボ大聖堂前の広場で行われたが、ドイツのウェズバーデン市等の姉妹都市からのグループも参加し国際色豊かな催しとなった。約 2,000人の聴衆は、特に日本の公演に深い興味を示し、終っても温かい拍手が鳴り止まず、出演者に次々と握手を求めた。滞在中、ゲント市当局による観光案内や歓迎レセプションも開かれ心温かい歓待を受けた。（写真は、ゲントでの公演）

○ナンシーから交換留学生が来訪

4月17日、姉妹都市ナンシーからの交換留学生ドミニック・マリ・クルジィエさんが市役所を訪れ、江川市長に留学のあいさつをした。ドミニックさんは、ナンシー・金沢両姉妹都市間の交換留学生としてはナンシーから3人目で、初めての女性留学生。パリのイースタン・スクールで約1年間、日本語を学び5年前から日本での留学を夢見ていたと言う。本市留学中は、金沢女子短期大学文学部国文科に籍を置き能楽を勉強する予定。江川市長から「能のどんなところに興味を持ったか」と尋ねられ、「舞台での動きや感情の表現に興味を引かれた」と答えた。又、日本の食事については「日本の食事は大変おいしいです」とたどたどしい日本語を交えて語った。江川市長から加賀人形をプレゼントされ、胸に記念バッジをつけてもらい大喜びだった。1年間の留学期間中、鈴見台の川端栄樹さん宅、野々市町の土肥弘明さん宅、平和町の田賀春代さん宅に寄宿の予定。（写真は、江川市長と握手するドミニックさん）



○バファロ展にチビッ子記者が来訪

8月24日から9月3日まで大和デパートで開催された「わが友バファロ展」（主催：金沢市・北国新聞社・北陸放送）にバファロからチビッ子記者2名と引率者が1名来訪した。これは国際児童年にちなんで招待されたもので、パトリック・マッキーティング君（11歳）、クリスティン・リリーちゃん（10歳）とパトリック君の父親のバファロ・イブニング・ニューズ社経済部長マイケル・マッキーティング氏の3名は8月21日の夜遅く来沢、翌22日には市長をはじめバファロ展の主催者を訪問、その夜は歯科医の白石康夫氏宅に民泊し、日本家庭の味を満喫した。2人は特に日本式の風呂に興味をもったようだった。23日には千里浜へドライブにでかけたが、波が高く、泳ぐつもりでいた2人は非常に残念がっていた。翌24日には午前10時からのバファロ展の開会式に出席、マッキーテンング氏は覚えたての日本語であいさつし、喝采を浴びた。一行は25日午前の便で離沢した。（写真は、会場でのパトリック君とリリーちゃん）

多数の市民が姉妹都市訪問

○ナンシー市助役来訪

昨年12月15日、姉妹都市ナンシーからブルーゼ・ジュルバン姉妹都市担当助役が本市を訪れた。ブルーゼ助役は、エール・フランスが大阪空港へ乗り入れを再会した記念飛行で大阪に着き、まっ先に金沢を訪問したもので、金沢駅には、江川市長をはじめ徳田金沢日仏協会々長等関係者多数が出迎えた。18日まで金沢に滞在し、その間、兼六園、武家屋敷、江戸村等を見学し、卯辰山では江川市長とともに松の木を記念植樹した。又、能を鑑賞する機会にも恵まれ、格調高い「石橋」の舞台に、うっとり見入り金沢の伝統芸能に堪能した様子であった。その他、九谷焼、加賀友禅をも見学し、その華麗な美しさに強く心を引かれ、特に、友禅の絵付けの作業場では、美しい花模様が描かれていくさまに「エクセラン(すばらしい)」と感嘆。一方、16日の晩にはセンチュリー・プラザで歓迎レセプションも開かれ、市民多数と交歓し、かざりや昭子創作舞踊研究所の子供達が踊る可愛いいバレエに目を細めて見入っていた。４日間の滞在ではあったが、多数の関係者と会い両市の友好を深め18日に離沢した。（**写真**は、江川市長と記念植樹するブルーゼ助役）

○県民課長がバファロ、ゲント訪問

石川県県民課長佐南谷賢龍氏は、バファロ市の広報広聴事務などについて調査のため２月15日に市庁舎を訪問し、グリフィン市長表敬後、秘書室等で事情を聞いた。同日晩、クーバー氏ほか姉妹都市委員会のメンバーにディナーに招かれ、楽しいひとときを過ごした。翌16日は、市の好意でナイアガラなどに案内され同日午後バファロを離れた。続いて22日から23日までゲント市を訪問した。モリーウ姉妹都市担当助役の出迎えを受けた同氏は、さっそく市庁舎で大学関係者をも交え広報広聴関係について約２時間、話し合った。又、22日の晩、歓迎夕食会の丁重なもてなしを受け友好交流を深めた。同氏は、23日朝、ゲントを離れた。

○メスマー一家がバファロから来訪

バファロ市のメスマー一家が４月23日に来沢、25日まで滞在した。ドロシー・メスマーさんは昨年10月に行われたバファロ地区商業会議所主催の産業美術第７回競技大会で見事に優勝、日本への周遊旅行をプレゼントされたもので、夫のフランクリン氏、娘のデボラさんとともに来沢した。メスマーさんの作品は〝ＤＮＡ〟と題し、牛乳のカートン箱をつぶしたものを積み重ねて人間の細胞内にあるディオキシリボ核酸を表現したもので、一家が金沢到着前にバファロ市からこの競技大会で上位入賞した作品３点が金沢へ送られ、彼女が市長訪問の際これらを正式にプレゼントした。なお、これらは大和デパートで開催された「わが友バファロ展」に展示された。

○県教育関係者がイルクーツク訪問

８月２日から10日まで、石川県社会教育委員の海外研修のため、森茂喜根上町長を団長に一行９名がイルクーツクをベース・キャンプに根上町の姉妹都市シェリホフをはじめハバロフスク各市を訪問した。本市関係者として佐藤令久石川県・金沢市公民館連合会長が参加した一行は、ピオネール（共産少年団）のキャンプ場、幼稚園、文化宮殿、こども美術館を訪れ、青少年の体験教育や社会教育の実状をつぶさに視察し、所期の目的を達した。なお、一行はサラツキー市長の配慮により本年３月オープンの新しいホテルに宿泊した。

○大和社長がバファロ訪問

大和社長の宮太郎氏は同社取締役社長室長の岩城実氏とともに７月31日の昼すぎバファロに到着した。バファロ空港にフライヤー会長の出迎えを受けた一行は同氏の案内でメインストリートにあるウィリアム・ヘンゲラー社を訪問した。会議室にマーフィー社長、スカシア副社長ら約20名の幹部の見守る中で宮社長は、今回の旅行の最大の目的であるＷ・ヘンゲラー社と大和の姉妹百貨店提携の同意書にマーフィー社長と肩を並べてサインした。同日の晩はバファロ・クラブでマーフィー社長主催のディナーに招かれた。８月１日の午前中、フライヤー会長に美術館などに案内されたあと宮社長はバファロ地区商業会議所会頭に就任したばかりのアンドリュー・クレイグ氏をＭアンドＴ銀行に訪ね、あいさつを交した。その晩はバファロの姉妹都市委員会前会長のディーボルド氏が一行をカナダ・オンタリオの別荘に招いて温かく歓迎した。（**写真**は、両社の姉妹百貨店提携同意書にサインする宮社長とマーフィー社長）

○金沢名鉄丸越社長がゲント、ナンシー訪問

８月２日から４日にかけて松本嘉八金沢名鉄丸越社長、北川晶夫菱機工業社長、中田淳造天狗中田社長の３氏が姉妹都市ナンシーとゲントを訪問した。一行は、ヨーロッパ訪問の機会を利用し、秋の金沢姉妹都市フェアが同百貨店で開かれるに際し、児童画等の出展を要請するために立ち寄ったもので、ナンシーではブルーゼ・ジュルバン姉妹都市担当助役の温かい出迎えを受けた。滞在中、スタニスラス広場等の市内観光の案内も受けた。又、ゲントでは、市主催の歓迎昼食会が開かれるなど、バン・ドウ・ウェーグ文化担当助役等から丁重なもてなしを受けた。滞在中、市内の百貨店へも案内され、店内視察の機会にも恵まれ、とりわけ松本社長は、同業とあってか商品の値段や種類等に深い関心を示した。両市とも極めて短かい滞在であったが、できるだけ多くの出展品を会期までに搬送することで話がまとまり、両市は、一行に温かい協力を約束した。
（**写真**は、ゲント市庁舎で写す）

○中学生親善代表団等がバファロ訪問

国際児童年を記念する金沢市青少年海外派遣事業として金沢市青少年代表団10名と金沢市中学生代表団15名（団長、奥清一市議会議員）がアメリカ諸都市を訪問の途次、８月14日昼すぎバファロに到着した。フライヤー姉妹都市委員会会長と州立バファロ大学の真下博士の出迎えを受けた一行はナイアガラへ直行、壮大な景観を楽しんだ。その帰りに放送局を見学したあとホテルにチェックインした。翌15日は10時に市庁舎へ向ったがグリフィン市長が不在のため奥団長は江川市長のメッセージを市長顧問に手渡した。12時頃から真下博士の案内でハイム中学校を見学、携行した児童画等を寄贈した。４時頃からハンバーグという町で開かれているエリー郡農業博覧会を訪れ、畜産物等の展示物を見学した。翌朝早くバファロ空港をたち、次の訪問地デンバーへ向った。（**写真**は、市庁舎前の一行）

○ベルギー国営テレビ取材チームが来訪

ベルギー国営テレビ放送局の取材チームが９月９日から21日まで本市をはじめ能登各地、永平寺を訪問し、土地の風物や人々の生活を取材した。

取材チームは、ディレクターのジャックリーン・オブリーさん（女性）とカメラマンのジャン・フランソワ・ブシュさん（男性）の２人で、取材したフイルムは、ベルギーで最も人気のある「世界へのビザ」という１時間番組で来年３月頃放映される。一行は、11日に江川市長を表敬訪問し、ゲント市長からのメッセージ等を手渡した。このあと江川市長のインタビュー録画に入り、「金沢の伝統文化は、21世紀にも残りますか」「日本の若者は、天皇をどう思いますか」などの質問をした。12日まで浅野川沿いの街並み、兼六園、加賀友禅、能楽等の古い街並みや伝統工芸などを取材した。友禅工房では、色とりどりの花模様を染めた友禅の美しさに感心していた。又、能楽の幽玄な舞台に大きな興味を示した。13日は、福井県の永平寺に宿泊し、座禅等の厳しい修行に打ち込む雲水の日常生活を取材した。14日から18日までは、能登入りし能都町の前野音雄さん宅に宿泊し、漁師の生活を取材した。丁度、七見のお祭ということもあって大変な歓迎を受けた。又、輪島では、塗器の作業場を取材し、その丹念な仕事に感心していた。17日は、舳倉島へ渡り海女の作業やのどかな島の自然を取材した。18日は、志賀町の養蚕農家を取材し、金沢へ戻った。なお、今回の取材にあたっては、金沢市、北陸放送、県観光物産課が協力した。

（**写真**は、取材中のベルギー国営テレビ・チーム）

○県教職員グループがゲント訪問

文部省派遣の教職員海外視察石川県グループ一行39名（団長、林友治金沢教育事務所長）が９月24日から27日までゲントを訪問した。滞在中、ゲント市当局の好意により市内の小・中学校を訪れ、児童・生徒の授業風景をつぶさに視察し、教育関係者とも懇談した。又、歓迎レセプションが開かれるなど大変温かい歓待を受けた。

○「石川敬老の翼」がゲント訪問

10月３日、「石川敬老の翼」一行135名(団長、小津正昭県レクリエーション協会理事長）がゲントを訪問した。小松空港からチャーター便で出発した一行は、ローマ、ミラノ、パリ等を回り、姉妹都市ゲントを訪問したもので、滞在は、わずか３時間足らずであったが、モリーウ助役をはじめ市の関係者が温かく出迎え、中世の面影を残すギルド・ハウスやセント・バボ聖堂等を案内してくれた。又昼食会等を通して両市の友好交流を深め、平均年令65才の老人達ではあったが一人の病人も出ず５日、無事帰国した。

○本市経済部長がイルクーツク訪問

10月７、８両日、ウラン・ウデ市で開催された第７回日ソ沿岸市長会議に金沢市長代理として、渡辺経済部長が出席し、「日ソ両国民の平和・善隣関係・経済・文化協力をめざす運動への都市の積極的参加」と題して、「日ソ両姉妹都市間で次年度の交流計画を策定する際、書簡・電報の往復、計画の検討、翻訳等が円滑に行われ、十分な情報交換が相互で実現されるならば、友好交流は更に大きな進展を示すものと確信する」旨意見発表を行い、コミュニケーションの緊密化、迅速な意志疎通をシベリアの各市長に呼びかけた。会議終了後、直ちに姉妹都市へもどり、翌９日、サラツキー市長はじめリハチョーヴァ副市長の案内でバイカル湖まで遊覧し、同湖沼学研究所長ガルキナさんと旧交を温めた。(**写真**は、サラツキー市長らと)

○第５回金沢姉妹都市フェア開催

毎年秋の本会の恒例事業となった姉妹都市フェアが今年も10月５日から10日までの６日間名鉄丸越百貨店で開催された。５回目を迎えた今年のフェアは、国際児童年にちなんでそのテーマを「こども」とし、会場には姉妹都市の子供の世界を紹介する写真パネル、玩具、教科書、児童画、工作などが展示され、又、各国の教育制度やしつけの仕方等も示され、姉妹都市の人形展と題して横浜国際会議場から借用した姉妹都市とその国の人形コレクション50点の展示とあいまってチビッコに人気を博した。このほか金沢市と５都市のこの一年間の交流の記録が写真パネル等で紹介され、又、恒例の姉妹都市バザールのコーナーでは各市の特産品や民芸品なども即売され、国際親善ムードを一層高めた。なお、開会式は、特別ゲストとして招かれた在神戸大阪フランス総領事アンドレ・プリューネ氏や姉妹都市からの留学生ドミニック・マリ・クルジィエ嬢（ナンシー）、ジョン・ウオレンタ君（バファロ）らの出席を得て10月５日午前10時から行われ、主催団体の長が次々にあいさつをしたあとプリューネ氏が流ちょうな日本語で祝辞を述べ、クルジィエ嬢も加わってテープカットが行われた。（**写真**は、フェアのテープカット）

○ベルギー・ロータリアンが来訪

10月10日から11日にかけて金沢の各ロータリー・クラブの受け入れでベルギー・ロータリアン一行21名が来訪した。団長は、オーバーストラーテン神父で金沢へはこれで３度目。滞在中、本多蔵品館、兼六園等を見学した。10日の昼、本市と各ロータリー合同の昼食会を催し、一行を歓迎した。ロータリアンである江川市長をはじめ各ロータリー役員となごやかに交歓した。夜は、ロータリアンの家庭に民泊し、日本の生活を体験し、11日の朝、離沢した。

○フジモト氏がポルトアレグレから来訪

ポルトアレグレ市在住の日系市民フジモト・ヒロシ氏が10月11日に来訪した。フジモト氏はポ市で指圧関係のクリニックを開業しており、ビレーラ市長とも親しく、同市長から日本へ行くのなら金沢へ寄ってほしいと依頼され、メッセージと「ポルトアレグレ」と題する本を託されて持参したものでフジモト氏によれば、ブラジルは年に60%以上のインフレが進むなど最近の経済事情悪化のため日本へ行きたくてもなかなか行けないのが現状とのことであった。

○「中日友好の船」一行が来県

昨年の日中国交正常化以後初の大型訪日団として中日友好協会会長了承志氏を団長とする中日友好の船訪問団600名が５月27日「明華号」で富山新港へ入った。これは近代化された日本を広く見学して中国での四つの近代化実現の参考にし、役立たせようと日本各地を訪問したもので、27日早朝の歓迎セレモニーのあと10班 200名が石川県に招かれ、兼六園を見学、センチュリープラザで開かれた歓迎昼食会に臨んだ。このあと、貯水を間近に控えた手取川ダムを見学、係員の説明に熱心にメモをとる団員の姿が見られた。翌28日には第22班20名を市が受け入れし、都市計画、再開発施設を視察、奥卯辰山健民公園で昼食のあと懇談会に入った。蘇州市との友好都市の声が高まっている折、この班には蘇州市の団員も含まれ、本市日中関係者と大いに友情を深めた。このあと一行は加賀友禅染色団地で友禅の工程を見学した。なお、29日には江川市長は中西知事らと明華号に了団長、孫秘書長を訪問、蘇州市との友好都市実現に協力方を要請した。（**写真**は、奥卯辰山健民公園での第22班一行）

プロフィール

ハワード N・ターノフさん

（金沢大学医学部留学生）

1952年　合衆国ニューヨーク市生まれ。
1975年　ニューヨーク州立バファロ大学卒。
1977年　同大学院ソーシャル・ワーク修士課程修了。
1978年　11月末、金沢大学医学部留学生として来訪。

ターノフさんは、文部省公費留学生として昨年11月に来日し、現在、金沢大学医学部で公衆衛生学を勉強している。姉妹都市バファロ市の出身で、州立バファロ大学院を卒業しており、大学院ではソーシャル・ワーク（*Social Work*）の修士課程を履修し、ソーシャル・ワーカーの資格を持っている。現在、大学での勉強のほか、週に一、二度、松任保健所等でソーシャル・ワーカーとして自分の専門分野を生かしている。ソーシャル・ワーカーという言葉は、我が国では、まだなじみの薄いものであるが、社会福祉の進んでいる欧米諸国では幅広い知識を必要とする大変重要な仕事として理解されている。ターノフさんは、現在、精神障害児の家族や本人に適切な治療計画の助言や指導を与えているが、日本の保健所における地域精神衛生活動への取り組みは欧米に比べ大変遅れているらしい。精神障害患者と医療機関とを結ぶパイプ役として専門的知識を有すターノフさんは、「日本では精神障害を恥とする傾向があるが、適切な治療と事後指導が行われるならば、全く心配いらない」と話す。

今年9月、長女ラナちゃんが金沢で生まれた。「シスター・シティー・ベビーですね！」と嬉しそうに笑う。国際交流について「学生の交流をもっと活発に行って欲しい」とまじめに話す。金沢が大変気に入ったらしく、来春、留学後も金沢に住みたいとか。とても27才とは思えない落ち着きのある、口ひげのよく似合うアメリカ人である。家族は、日本人の奥さんと子供二人。市内小立野在住。

○第４回ナンシー派遣留学生に中村君が決定

姉妹都市ナンシー市へ派遣する第４回留学生に金沢大学教育学部３年中村大次君（22才）が決定した。同君は、応募者３人の中から選ばれたもので、ナンシー留学期間は、10月から来年９月までの１年間。向こうでは国立ナンシー第二大学のフランス語講座を受講する予定。留学中は、ナンシー市から毎月1,200フランを支給される。10月26日に出発したが離沢に先だち江川市長にあいさつに訪れた中村君は、市長から渡航費等の一部として50万円を手渡され、「一生懸命がんばります」と力強く抱負を語った。（**写真**は、中村大次君）

○昭和54年度総会開催

６月18日午後市役所において約30名の本会委員の出席を得て昭和54年度金沢市都市提携委員会総会が開かれた。まず江川市長のあいさつを受けたあと会長選出に入り金沢市議会議長村中博明氏（**写真**）が指名され、満場一致で会長に選出された。続いて新会長があいさつに立ち、国際親善事業の重要性について言及し、姉妹都市友好親善プログラムの促進のためできるだけ努力する旨の決意を表明した。このあと新会長のもとで議事が進行され、昭和53年度交流事業などの報告事項のあと昭和54年度交流事業計画案の審議に入った。事務局から提案された金沢市邦楽舞踊親善使節団のゲント派遣、金沢・ナンシー両市学生交換プログラムに基づく金沢側留学生派遣、わが友バファロ展、姉妹都市フェアの開催、金沢市留学生受入制度としてマレーシアの陳君と第３回ナンシー側留学生クルジィ工嬢の受入などの事業計画案はこれらに伴う予算案とともにいずれも原案どおり採択された。

ゲント親善の旅を終えて

金沢市邦楽・舞踊親善使節団
団長　上　野　禎　洋

夜、アンカレッジを飛び立ったジャンボ機中で仮眠もつかの間、眼を射るような強い光が小さな窓からさした。北極の海の流氷に反射する太陽の輝きである。幾可学模様の縞の氷塊とサファイア色の海。表現する言葉がない位の青と白のコントラスト。カメラのシャッターをきったのは当然である。ヨーロッパへの旅路の第一印象であった。

時は遡るが３月の中頃であった、金沢市都市提携委員会から「７月の姉妹都市ゲント市（ベルギー）の市祭に邦楽・舞踊団を編成して親善訪問してくれないだろうか」との要請を受けてから去る７月21日の帰国まで、それはそれは長い時間であった。と言うのは準備が大変だったからである。何分にも24名のうち大半の参加者が外国は初めてという女性で占められたからである。とりわけ、日本舞踊や邦楽を披露するわけであれば、日本人ですら伴じ難いところもあるのに、異国の人に如何なる出し物が恰好であるだろうかと思索がつきない。少し前置きが長くなったが足早に言うと、７月15日と16日の２日にわたって場所を変えての屋外公演である。そこでフラマン語に翻訳した次のプログラムを作成した。一、箏曲「わらべ唄」釣谷雅楽房社中、二、舞踊「三つ面子守」藤間奈緒美、三、長唄「越後獅子」長唄各派合同、四、舞踊「月の猩々」藤蔭文美、五、箏独奏「子守唄変奏曲」、箏四重奏曲「湧きいづる力」釣谷雅楽房社中、六、舞踊「東都獅子」藤間実、七、三絃合奏　組曲「日本の四季」長唄各派合同、八、舞踊「藤娘」藤間寿、藤間勘友枝、藤間勘紫枝、九、箏曲「さくら」「荒城の月」釣谷雅楽房社中、十、フイナーレ「百万石音頭」全員出演。

古い歴史を誇るゲント市は、金沢に似て緑の多い静かな都市で、その街並や建造物は、ヨーロッパ文化の一端を物語っているようである。２日目に森の中の文化センターへレセプションということでバスで運ばれた。ゲント市の姉妹都市つまり日本の金沢、西ドイツのウェズバーデン、フランスのセント・ラファイエルの人達、約300人が、それぞれのお国の衣裳を身につけて集まった。その中でも地球の反対側からやってきた私達一行24名の長袖の晴姿は、注目の的であった。2回目の公演は、市の中心部にあるセント・バボ大聖堂前の広場で前述の三姉妹都市がそれぞれお国自慢の音楽や踊りを披露した。夏のバカンスで市民が少ないと聞いていたが、さすが市祭である、この広場は黒山の人。四面高い建造物に囲まれていることもあって屋外ではあるが音の反射が良く、一曲毎の拍手がこだまで帰ってきた。手前味噌的ではあるが、私達の出番の時は、一段と聴衆の数が多いのである。出演者も聴衆も共に民俗の饗宴に酔っているのである。フィナーレを終って控室へ帰ってきた私達一行の顔は、疲れこそ見えたが皆満足感で一杯の笑みがそこにあった。私達に与えられた国際親善と姉妹都市友好の使命が果たされたという実感が湧いてきた。と同時に、旅路の疲労と郷愁感も覚えずにはいられなかった。団員の皆さん本当にご苦労さまでした。

明日は花のパリーが皆さんを待ってますとね。

○編集後記

現在、本市と中国の蘇州市との姉妹提携の話が進められている。先日、京都へ行く機会があり白沙村荘を訪れた時、橋本関雪画伯の絵の中に蘇州の風景画が沢山あった。柔らかなタッチで描かれているそれらの絵を見ていると、蘇州の自然をこよなく愛した画伯のやさしい心情が伝わってくるようであった。画伯の絵に心打たれた一日であったが、それだけに早く提携が実現して欲しいと思った。（S・K）